

2021  
年度

新島襄生誕179年記念

生徒・学生



# 懸賞論文募集

## 応募資格

- ① 同志社の諸学校（中学校、高等学校、大学、女子大学、大学院）に在籍する生徒・学生
- ② キリスト教学校教育同盟に加盟する学園に在籍する生徒・学生
- ③ 新島襄または同志社に関心を持つ中学校、高等学校、大学、大学院の生徒・学生

## 論文のテーマ

「新島襄または同志社の歴史に関するもの」

## 字数

		日本語の場合	英語の場合
中学校の部	手書き	本文 2,500字程度 A4判原稿用紙 (縦又は横書)	
	パソコン	本文 2,500字程度	本文 1,500語程度
高等学校の部	パソコン	本文 4,000字程度	本文 3,000語程度
大学・大学院の部	パソコン	本文 12,000字程度	本文 7,500語程度
パソコン原稿の書式		A4判横書 1ページ 40字×30行	A4判横書 1ページ 30行

## 締切

2021年11月2日(火)【必着】

## 送り先

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入  
同志社大学同志社社史資料センター

## 表彰

応募作品は審査委員会において審査のうえ、最優秀賞、優秀賞、佳作を選び、第179回新島襄生誕記念会（2022年2月14日(月)同志社礼拝堂）において賞状・賞品を授与する。なお、入賞作品は『2021年度新島襄生誕記念懸賞論文 入選作品集2022』に収録し、刊行する。また、入選者については『入選作品集』に学校名、氏名を記載する。

## 注意

- ① 応募にあたっては募集チラシ裏面の「新島襄生誕記念懸賞論文 作成要領」にしたがうこと。  
(<https://archives.doshisha.ac.jp/essay/outline.html>)
- ② 断りなしに他者の文章を使用してはいけない。使用した場合、注をつけるか、原稿末尾に、引用文献および参照した文献のリストをつけること。詳しくは同志社社史資料センターホームページ「懸賞論文」(<https://archives.doshisha.ac.jp/essay/outline.html>)あるいは『2020年度新島襄生誕記念懸賞論文 入選作品集2021』(学校法人同志社各校図書館に所蔵)掲載の「懸賞論文の書き方について」を参照すること。
- ③ 『新島襄全集』『現代語で読む新島襄』『新島襄の手紙』『新島襄 教育宗教論集』『新島襄自伝』など、新島自身の文章を資料として利用することが望ましい。
- ④ 応募原稿は原則として返却しない。

主催 ▶ 学校法人 同志社

問合せ先 ▶ 同志社社史資料センター事務室

(TEL : 075-251-3042 FAX : 075-251-3055 E-mail : [ji-shashi@mail.doshisha.ac.jp](mailto:ji-shashi@mail.doshisha.ac.jp))

## 1 文字数・ワード数について

本文の文字数・ワード数は指定数の上下10%前後を目安とする。

## 2 作成方法

### (1) 共通事項

- ① A 4判の用紙を使用する（原稿用紙の場合、特に気をつけること、おおよそ29.7×21cm）。
- ② ページ番号をつけること（タイトル、氏名等を記載したページを第1ページとする）。
- ③ 表紙はつけない。
- ④ 1ページ目の冒頭に「タイトル」（必要な場合は2行目を使ったり「サブタイトル」をつけてもよい）、改行して「所属学校・学年」、さらに改行して「氏名」を書き、氏名には「ふりがな」をつける。
- ⑤ 本文の文末に本文の字数（日本語）かワード数（英語）を記載する。  
パソコン等に表示された字数・ワード数でよい。原稿用紙の場合は、行単位で計算する。
- ⑥ 高校生以上はパソコンで作成すること（後日提出を求める場合があるので、作成した応募原稿はデジタルデータで保存すること）。

「(1) 共通事項」とあわせて以下の事項にしたがうこと。

### (2) 原稿用紙使用の場合（中学生）

- ① 400字詰A 4判原稿用紙（20字×20行）を使用すること。
- ② 縦書き横書きは自由。
- ③ 鉛筆のBまたはHBを使用し、大きくしっかりと濃い目の字を書くこと。

### (3) パソコンで作成の場合

- ① 原則として横書き、1頁40字×30行とすること。
- ② 特に必要ある場合は縦書き（用紙横）1頁30字×40行としてもよい。

## 3 論文の書き方について

### (1) 」の前には、句点（。）はつけない。

例：文書の途中の場合 …と言った」と書いている。  
文書の最後の場合 …と言った」。

### (2) 年号は西暦で表記する。なお、必要な場合は元号を併記する。

例：1875（明治8）年

## 4 注のつけ方について

論文の場合、注のつけ方はたいへん大切で、その論文の価値にも影響する。応募にあたっては、『新島襄生誕記念懸賞論文 入選作品集』（学校法人同志社諸学校等の図書館に所蔵）中の「懸賞論文の書き方について」を必ず読んで、例にならうこと。

同志社社史資料センターホームページ／「懸賞論文」のホームページにも掲載しているので、参照すること。<https://archives.doshisha.ac.jp/essay/outline.html>